■このコーナーを担当したのは、
渡辺（わたなべ） 明美（あけみ）さん（岡芹（おかぜり））

アルテリオに響く天使の歌声

みなさんは、筑西市に『ちびっこ合唱隊』があることを知っていますか。しもだて地域交流センター（アルテリオ）を会場に練習を続ける合唱隊。昨年8月の発足の様子や、県西生涯学習センターにおいて開かれた新春コンサート（1月14日開催）で歌声を披露したことなどが、新聞でも紹介されました。今回は、この『ちびっこ合唱隊』の活動をご紹介します。

音楽性と人間性を養う合唱隊

『ちびっこ合唱隊』は、地域交流センターの主催事業のひとつ。『童謡・唱歌を楽しく歌う活動を通して、明日の時代を担う子どもたちの音楽性を養うとともに、童謡に込められている郷愁や純真無垢な童心に触れることにより、人間性豊かな心の育成に努める』ことを目的に発足しました。今年度は、10月に開催される『第18回全国生涯学習フェスティバル まなびピアいばらき』などに参加することを目標に、月二回の練習に励んでいます。

子どもたちを指導するのは、元下館小学校教頭で、現在は市教育委員会の日本語指導員をつとめる高久延代（たかくのぶよ）さん（69歳・二木成（にぎなり））。また、隊員の保護者でもある山本裕美（やまもとゆみ）さん（37歳・野殿（のどの））が伴奏を手伝っています。

合唱隊発足以前から、相次いでおこる幼児や青少年に関わる悲しい事件に心を痛め、何か自分にできることはないかと考えていたという高久さん。教員在職中に歌唱指導をした経験を生かし、童謡を通して子どもたちの思いやりや豊かな心を育んでいこうと、合唱隊の活動に熱心に取り組んでいます。

現在の隊員は、幼稚園・保育園の年中組から小学5年生まで38人。今年は新しい子が10人入りました。「歌を歌うだけでなく、曲にあわせて打楽器を演奏したり、リズム遊びをしたりしてとても楽しいです」と言う子どもたち。私も、練習に励む子どもたちの姿を見て心が和みました。

子どもたちは、名札係や掲示係、あいさつ係など、歌以外に自分のできる役割をこなすことで、合唱隊の運営にも参加しています。異なった年齢による共同作業の中で、学校や塾での勉強とは違った多くの経験を積んでいるようです。付き添いのお母さんたちもイスの片づけを手伝ったり、一緒に歌を歌ったり、童心に帰って子どもたちと楽しい時間を過ごしていました。

豊かな心を歌い継ぎたい

6月の練習曲は、「でんでん虫々…」（『かたつむり』作詞作曲不詳）、「雨々ふれふれ母さんが…」（『雨降り』作詞・北原白秋、作曲・中山晋平）、「月夜の田んぼでコロロコロロ…」（『カエルの笛』作詞・斎藤信夫、作曲・梅沼実）など。季節を考え、小さい子でも楽しめるように選曲しています。高久さんは、「子どもたちに自然を愛する心を歌い継いで欲しいと思っています。茨城県出身の詩人・野口雨情の曲なども、折に触れ取り上げていきたいですね」と語ってくれました。

歌の力、音楽の力は、人々の心に橋を架けてくれると聞きます。子どもたちが豊かな心をもって成長してくれることを、私も願っています。